

制定前後から見た憲法の今日の問題

2014/3/5 千葉大学法経学部 石田憲

日本、ドイツ、イタリア、イギリスにおける第二次世界大戦の終わり方と政策決定構造が影響した憲法の方向性

I. リーダーシップは「国を救う」か？

- A. チャーチルとヒトラー
- B. 国家に対する反逆の桎梏

II. 基本的人権と立憲主義

- A. 人間の尊厳と法実証主義
- B. 脱国民国家・国際的枠組みの重視
- C. 合法性と恣意性

III. 政治的責任の所在

- A. 君主制と国民投票
- B. 無責任の体系
- C. 天皇制と平和主義

報告者の関連文献

石田憲「イタリアにおける戦争の記憶」（研究ノート）『千葉大学法学論集』第17巻、第4号（2003年）。

石田憲「イタリアのアフリカにおける植民地との比較から」国立歴史民俗博物館編『「韓国併合」100年を問う 2010年国際シンポジウム』岩波書店、2011年。

石田憲『地中海新ローマ帝国への道——ファシスト・イタリアの対外政策 1935-39』東京大学出版会、1994年。

石田憲『日独伊三国同盟の起源——イタリア・日本から見た枢軸外交』講談社選書メチエ、2013年

石田憲『敗戦から憲法へ——日独伊 憲法制定の比較政治史』岩波書店、2009年。

石田憲『ファシストの戦争——世界史的文脈で読むエチオピア戦争』千倉書房、2011年。

図1 日英独伊四国の対外政策を作り出す構造

